

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人 康整会		
事業所名	グループホーム ツーハーツ(こもれび)		
所在地	福岡市早良区次郎丸5-18-28		
自己評価作成日	平成25年3月18日	評価結果確定日	平成25年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosvoCd=4071401188-00&PrCd=40&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

母体の医療機関との連携を図り、各ユニットに看護師資格を持つ職員を配置し、終末期ケアにも対応している。
一人一人の個性を大切に、見守り、寄添うケアを実践し、入居者と共に笑って過ごせる施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

整形外科を専門とする医療法人が母体であり、早良区次郎丸において4か所の施設を営む同グループの先駆けとして「グループホームツーハーツ」は立ち上げられ、今年で開設10周年を迎える。地域の高齢者を守る手助けが出来るようにと、地元の声に応える形で開設され、「利用者スタッフ寄り添う」という意味で「ツーハーツ」と名付けられた。複合施設であり、居宅介護、デイサービス、有料老人ホームと併設され、イベントなども各事業所で持ち回りで担当し、一体的な運営がなされている。週1回無償で理学療法士によるリハビリを施し、体操の指導なども行われる。ターミナルケアにも早期から取り組み、手厚い医療支援とオンコール体制がとられており、重度の方の受け入れも行ってきた。これからも地域に密着した施設として、存在感あるサービスが提供されていく事が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼での唱和や、常に名札の裏に携行し理念に基づいたケアを実践している。	法人全体の理念が開設時から作られており、各ユニットの入り口への掲示と、名札の裏にも記載されている。毎週の施設合同朝礼で唱和されており、利用者を尊重して、カンファレンスや個性に合った介護に活かされている。ユニット合同会議でも理念に基づいた話し合いが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、餅つき大会に地域の子供たちの太鼓を招き、演奏を披露して頂いたり、餅つきや餅を丸めるなど入居者と一緒に活動する機会を設けた。招き、毎月、地域の公園掃除や、年末年始の防犯パトロールにも加わり交流を深めている。また、中学校の職場体験、隣の専門学校からの実習生の受入を行っている。	夏祭りやもちつき大会には地域ボランティアも招き、子供たちとの触れ合いは利用者にも好評である。校区の太鼓クラブは定期的に慰問に訪れており、町内会長が地域情報をもって来訪され、公民館活動には施設長が参加している。町内会の勉強会に講師を派遣したこともある。	地域との関わりをさらに深めていくために、地域代表との情報交換や、認知症の勉強会など、施設をもっと知ってもらえるような情報発信がなされていくことに今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においてGHの日常を説明し認知症への理解が得られるよう心がけている。又、職場体験の受入により人材育成、若年層へ認知症介護の理解が深められるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、入居者の状況や行事などの報告を行い、出席者との質疑応答の際には施設側だけでなく包括支援センターや行政機関の担当者への質疑もあり参考にするべき事が多い。	地域代表や市職員の他に、近隣のグループホームからも会議に参加されている。情報提供や災害協力の相談をしたり、他事業所から外出先の情報をもらったりもしている。活発に意見の交換がなされており、運営に活かされている。	会議をさらに発展させていくために、利用者や家族への参加の呼びかけを行うことや、議事録の閲覧や公開の体制が整えられることに今後は期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回案内を行い、止むを得ず欠席の際には議事録を送付している。出席された際には、意見やアドバイスを求めている。	施設統括主任が窓口となっており、質問などあった時は電話や訪問によって市の担当と関わっている。保護課などの担当課ともやりとりがなされ、何かあった時にもすぐに相談できるような関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で理解を深めている。また身体拘束廃止委員会にて各部門との意見交換を行い寄添い、見守りに重点を置き拘束のないケアを実践している。	虐待や身体拘束などをテーマに年に2回程度、全体研修が開かれ、全部署の管理者が委員会でも事例検討を行っている。夜間のみ玄関施錠を行い、エレベーターホールや受付で見守り、付添いによって対応している。センサーや四点柵も使わず、日頃のケアに関しても、委員会で検討して拘束につながる行為の注意・指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で理解を深めている。事例を基にグループワークを行い、防止策を話し合い未然に防げるよう、職員の意識付けを行っている。		

自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で理解を深めている。現在、制度の利用者はいないが、必要に応じ対応できるよう研修で学んでいる。	対象となるようなケースはないが、以前は成年後見制度を利用された方がおり、専門家と協力して対応してきた。併設事業所には利用者があり、年に1回の研修で事例を共有している。職員も一般的な制度の理解をしており、ポスターの掲示や説明用の資料の準備もされている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書、運営規定を読み上げ説明し、不安や疑問点を確認しながら理解を得ている。契約時には必ず職員2名で行い、不十分なところを補えるよう配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、家族の面会時には声をかけ話をしやすくなる様に配慮し、要望があれば対応について検討している。	利用者や家族とは普段の会話の中で意見を聞き取り、申し送りノートや記録に残して共有している。家族からあがったりハビリの要望に応じて、今では無償リハビリの提供につながっている。以前は家族会の開催やユニットからのお便りを発行していたが今はされていない。	人事異動の報告や、情報の提供のために、事業所からお便りを発行したり、家族とのやりとりが円滑になるように連絡帳や家族会の開催などの取組もされることが望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議意見交換を行い、法人内の運営会議において報告・相談し方向性や問題解決を行っている。	施設全体の研修、グループホーム会議がそれぞれ月1回あり、パート職員も含めた全員が参加している。レクリエーションに関して情報の共有や、事例検討など、意見は出しやすくスムーズなコミュニケーションがとられている。年に1、2回の個別面談のほか、日常的にも話はしやすく、職員からの意見で感染予防の対応なども行われてきた。	会議や個別面談によって職員からの意見を聞きとって反映に活かしているが、職員アンケートなどの活用によっても、より広く意見が聞きとられていくことに今後は期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、勤務状況、資格取得などの諸条件にて社員登用など、勤務条件の向上が図られている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたり制限は設けておらず、定年に達した職員も本人の希望、法人の条件などにより雇用延長を行っている。また、希望する休日が取得できるように配慮した勤務シフトを作成している。	20～60歳代まで幅広く、年代性別を問わずに、資格や経験を活かしたサポートをしている。シフト調整や勤務時間の調整もお互いに協力し合って確保され、休憩時間やスタッフルームも設けられている。事業所からの研修案内もあり、本人の判断で参加ができるが、4月からはより参加しやすくなるような配慮がなされるようになった。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修にて理解を深めている。入居者に対する人権を尊重するため、言葉遣いなど接遇には徹底指導されている。	権利擁護に関する研修を行い、人権尊重に関わる話し合いなども年に1回はテーマとして取り上げて行われる。普段のケアにおいても特に注意して心がけている。	外部研修の参加や、伝達研修による啓発活動、外部機関の資料などを活用することで、事業所全体の意識がより一層深まっていくことに今後は期待したい。

自己・外部評価表(GHツアーツ)こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月開催している。外部研修参加への援助について法人からの補助体制が構築され、今後参加者の増加が見込めるようになった。また、各種資格取得のためのスクーリング出席の際、有給休暇取得ができる		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣のGHを招き、地域の人や包括支援センターを交えての会議を2回開催した。他GHより定期的に開催して欲しいと希望があり、25年度も開催する方向で検討している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、受容の姿勢で本人が望む生活に近づけ、新しい環境に馴染めるようコミュニケーションを大切にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ等からの情報を基に、事前面接を行い情報収集しサービスを提供している。気があれば家族と連絡を密にとり報告、相談をしながら信頼関係構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に寄添い、見守るケアを実践し行動や表情など言葉以外のサインを見逃さないよう対応している。新しい発見があれば介護計画に反映するように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を重視し、寄添い一緒に活動し、一緒に笑う生活を目指している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡により日頃の様子や体調の変化を報告し、また家族の要望を確認するなど関係が途絶えないように心がけている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に馴染みの場所へ出かけられる。友人との面会はプライベートの観点により、事前に家族に確認を取り対応している。	関係者からも入居前の情報を得て、事業所が支援出来ない時は家族に依頼して、馴染みの美容室にいたり、喫茶店でお茶を楽しんだりもしている。友人が訪れて他の利用者とも仲良くなることもあった。家族が遠方の場合には電話や手紙などを支援したり、外泊援助を行ったりもしている。	

自己・外部評価表(GHツーツーエス)こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場であるリビングの座席は入居者同士の関係を保つように配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居など退去した後も相談があれば対応できる旨を契約時、退去時に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面談時、契約時に本人、家族の意向を確認し、また日々の関りの中で思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な場合には本人の思いが引き出せるよう表情や動作を観察し思いを汲んでいる。	入居時に本人や家族から以前の生活歴や嗜好などを聞いて生活歴シートにまとめている。筆談などによって利用者ごとのアプローチを行い、根気よく繰り返して説明したり、利用者の思いがくみ取れるように働きかけている。	センター方式など様々なアプローチを活用することで、本人との関わりを家族とも共有し、関係者と協力した、本人本位の思いの把握が進められることに期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談やケアマネからの情報提供、家族からの情報を基に把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面談やケアマネからの情報提供、家族からの情報を基に残存機能、心身の状況の把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との対話の中からニーズを引き出し、カンファレンスにて介護計画を立案している。	全利用者のカンファレンスを毎月行って話し合い、モニタリングとケアプランの見直しは3カ月毎と、随時に行っている。短期目標にそった日々のチェックシートがあり、毎日確認されている。家族の意見は面会時や電話などで聞き取り、カンファレンスなどで共有している。看護師や専門家の意見も取り入れプラン作成に活かしている。	日頃、家族や関係者からの意見を取り入れているが、担当者会議での意見照会や参加はされていなかったため、より全体的なチームケアに取り組みまれていくことに今後は期待される。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	送りノート、個人カルテにて情報共有し、新たな気づきがあればカンファレンスで取り上げ、介護計画への反映、ケアへの実践を行っている。		

自己・外部評価表(GHツーツーエス)こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の医療機関、併設事業所と連携を図り、行事等計画・実行している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域住民、民生委員、包括支援センターを招き、意見交換、情報提供を行い、行事への参加を呼びかけている。近隣の中学、専門学校の職場体験、実習生を受入れ若年層との交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望があればかかりつけ医の受診を継続され、日々の状況など情報を伝えている。母体の整形外科と連携を図り医療支援を行っている。	内科医が施設内の診療所に週2日おり、整形外科の提携医の往診とも合わせて、週に3回医療連携が取られている。専門科の通院は家族が介助し、必要がある場合などは事業所からも支援を行っている。往診は全員に対して行い、その都度家族への報告もされている。各ユニットに看護師が1名ずつおり、施設内でも十分な医療体制がとられていた。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護資格を持つ職員を介護職として配置し、協力体制を取っている。日々の生活の中で小さな変化をも逃さず、変化があれば報告、相談している。時間外にも連絡がとれ必要に応じて出勤している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者又は看護資格所有者が医療機関に訪問し主治医、MSW、看護師と情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を慣れ親しんだ環境で迎えることを望まれる家族が増えている。家族には、事業所ですることができることを説明した上で納得され、Drと連携を取りながら支援している。	希望があればターミナルの方も受け入れてきており、今までにも複数例看取ってきた。医師とも連携をとったうえで、納得のいくように説明をしている。母体が医療法人でもあることで、医療体制は手厚く、週に2日は施設内に医師が常駐している。終末期医療に関する研修も年に1、2回行い、職員の理解を深めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で看護職員が講師となりAEDの私用方法、胸骨圧迫法などの指導を受けている。併設施設の看護職員との情報交換を行い緊急時の対応が行える。		

自己・外部評価表(GHツーハーツ)こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施。実際に消火器、消火栓を使用した消火訓練も取り入れ、消防署防災設備会社等の立会いの下、夜間想定訓練を実施している。	夜間想定も含めた総合訓練と防災訓練を実施しており、2年前から全館スプリンクラーを設置し、消火設備の見直しも行っている。災害時の一時避難所の提供も地域から打診があり、水や食料などの備蓄物も余裕をもって確保している。	事業所内での訓練活動は行われているが、今後は地域との関わりを強くするために、地域に訓練の呼びかけを行ったり、近隣の高齢者施設との連携を図り、相互協力の体制が作られていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけや対応を行い、視線をあわせて傾聴し、個々の尊厳を大切にしている。	毎月の全体研修の中で、施設長が接遇やプライバシーの研修を行い、相手の状態に合わせた呼びかけ方などを工夫して対応している。また、座席の向きや並び順なども、個人個人を尊重して全体のバランスが調和するような配慮もなされていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に観察し言葉ではないサインを見逃さず共感的に接し、自己決定ができるように配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否があれば無理強いせず時間を代えて案内するなど、個々のペースにあわせて柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容で好みの髪型にした貰ったり、加家族と行き付けの美容室へいかれる人もいる。衣服は好みの物を選択できるよう促しながら用意している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。自発的に配膳、下膳、テーブル拭きを手伝われる人もいる。	施設全体で業者に委託して調理されており、各ユニットに配食されている。ごはんのみユニットで準備され、利用者も出来る時は手伝っている。職員も同じものを一緒に食べて、感想などを聞き取り、栄養士が毎月の給食会議でメニューを作成し、希望なども反映させている。毎月1日の赤飯や行事食などで変化をもたせた食事が楽しまれていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、個々の状態に応じた食事を提供している。水分補給は食事以外の時間にもおやつや時間を設け補給に努めている。		

自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に見守り、一部介助で実施し、夜間は義歯洗浄剤に入れて清潔を保つようになっている。協力歯科医院の往診を受けることが出来る。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個々の排泄の状態やパターンを把握し適切なタイミングで誘導を行っている。	毎日1枚のシートに全員分の排泄チェックを行い、個人記録に写し変えている。職員の申し送り記録を回覧して提案もあり、昼間のパット利用が検討され、リハパンに改善された方もいた。チェック表をもとにして全員のリズムを把握し、時間帯や利用者にあわせた介助を行っている。声かけも本人にだけわかるように配慮し、拒否があった時も、気持ちが落ち着くように働きかけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を基本とし、適度な運動や、水分補給の管理を行い予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調と希望により実施している。状況や希望に応じて連日の入浴にも対応している。	週2~3回の入浴を、午前から午後にかけて行っている。個浴で本人の体調を見ながら、長く入りたい人がいれば対応も出来る。順番も人によって考慮し、嫌がる時も無理強いないで介助している。浴槽では目線を合わせて話しかけて、大事なコミュニケーションの場としても役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を確保できる様に午睡時間に配慮している。無理強いして起こすことは避け、本人の希望でいつでも休めるよう配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、薬剤情報を活用し処方薬の確認をしている。処方日には薬剤師の管理を受け副作用の有無、経過などの報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し楽しみ役割を提供し活力ある生活ができるよう援助している。		

自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や季節の花々を見学に出かけている。面会時に家族と外出し食事や買い物を楽しめる人もいる。	気候のいい時は近隣の散歩などを行い、施設内の花壇の手入れを一緒にしたり、畑の世話を楽しんだりもしている。先日行った3ユニット合同でのドライブは好評で、日頃も通院の折にドライブをすることもあ。支援が難しいときには家族にも協力してもらって外出の働きかけを行っている。	以前に比べて外出の機会が少なくなってきたことと、行事的な外出なども人員調整などで行けるようになることが望まれる。また、外出を楽しんでもらうために、行きたい所の把握を進めていくことにも期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理し現金を使用することはない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族の了解を得て電話を繋げている。新年には家族へ年賀状を出し、家族より喜ばれた。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、危険な物を置かないようにしている。季節感を醸し出す飾り付けを行い情緒的に訴える配慮をしている。	ユニットごとに多少間取りは違うが、共通して広いリビングと窓際に設けられた和室スペースがあり、中央に並べられたテーブルを囲んでゆったりとした時間が過ごされている。トイレは各2か所あり、車いす用に広めに確保されている。ユニットの好みで好きな花や作品を飾ったり、熱帯魚の飼育などもされていた。	収納スペースの関係で、和室フロアが物置状態になって活かされていなかったもので、整理を進めて活用がされていくことに期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも休めるようソファをを配し、畳澄スペースを設け寛げる空間を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みを依頼し住み慣れた環境に近づけるように家族の協力を仰いでいる。	各居室に介護ベッドが備え付けられており、利用者は各自でダンスや写真などを持ち込んで自分の部屋として居心地良く過ごされている。窓は広く確保されて、自然光だけでも十分に明るい。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無理強いせず、拒否せず、見守り、寄添い、本人の望む生活ができる様に配慮している。		